

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 3 月 2 日

【評価実施概要】

事業所番号	2170200642		
法人名	医療法人 崇仁会		
事業所名	洞戸グループホーム 天津風		
所在地	岐阜県関市洞戸大野852-1 (電話) 0581-58-8600		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成21年2月25日	評価確定日	平成21年4月6日

【情報提供票より】 (平成 21年 2月 10日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 4月 7日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	17人	常勤 11人, 非常勤 6人, 常勤換算	10人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,000~66,000 円	その他の経費(月額)	27,000~ 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200 円	

(4) 利用者の概要 (平成 21年 2月 10日 現在)

利用者人数	17名	男性	7名	女性	10名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	4名	要介護4	4名		
要介護5	6名	要支援2	6名		
年齢	平均 82.4 歳	最低	70 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	国民健康保険洞戸診療所、岐北厚生病院、船戸クリニック、えんどう歯科クリニック
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

板取川を望む高台に立つホームは、天然木がふんだんに使用され、床暖房も設備されている。緩和ケア在宅専門医の医療法人が母体であり、施設長の「馴染んだこのホームが終の住処に」という考えにより、当初から看取りが行われ、終末期には居室内で家族も共に宿泊ができる。広々としたリビングには畳の和室と、利用者が思い思いにくつろげるよう、あちこちにソファやテーブルが置かれている。管理者が看護師であることから、日々の健康面や体調にきめこまかく配慮し、本人と家族、職員の安心感を得ている。開設当初からの職員が多く、利用者とも馴染みの関係が築かれている。ここで看取った利用者の家族には、49日と100ヶ日にホームから花を届け、利用者を支えた家族への心づかいを行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題であった「家族への報告」は生活面と健康面に配慮した個別便りの作成を行い、「外出支援」は重度であっても四季を感じられるようにと外でティータイムを行うなど、職員間でできることを話し合い、確実に改善への取り組みが行われている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	前回の改善課題を職員会議で話し合い、その結果を自己評価内で実施している。今後は、ユニット別に作業を促し、サービスの向上へとつなげていく計画をしている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議は2ヶ月に1回行われ、行政担当者・自治会長・老人会長・家族代表などの参加があり、外部評価結果を受けての改善課題への取り組み状況やホームの行事案内、地域イベント参加などの報告を行っている。地元からは、学校との交流を図る提案も出るなど、幅広い意見交流の場ともなっている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	意見箱が設置されているが、家族の意見や要望は直接ホームに届くことが多い。利用者の担当者が日々の様子を拾い上げた個別便りは、様々なイラストが書かれ担当者一人ひとりの個性ある便りとなっている。生活面と健康面に配慮した内容は、遠く離れて暮らす家族の安心感を得ている。苦情窓口は家族がもっと言いやすくなるようにと、相談窓口のさらなる拡大を計画している。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	開設当時から町内に加え、回覧板でホームの行事を伝えるなど、ホームの地道な努力により、地域との交流も軌道に乗りつつある。ホームで行われる夏祭りには住民が多く参加し、利用者と共に夏を楽しむ場ともなっている。長期の利用者が多く、高齢化にはなってきたが、ホーム行事や近くへの散歩等により、顔見知りの住民も増え、地域交流が自然に行われている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者はホーム開設当時から「自然と共に仲間と共に」という理念を掲げ、地域で住民と共生を目指して行こう、という意味を込めた理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、旧来の概念に添った介護を脱し、その人に寄り添った心のこもったケアを目指している。日々のケアの中でその時に必要な助言を行い、理念に添った介護ができるよう職員会議や申し送りでも確認し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設当初から自治会に加入し、ホームで行う夏祭りや行事を回覧板で伝えることによって住民も訪れるようになった。地域自体が高齢化となっており、今後は、このホームが地域にとって大切な存在となっていくよう交流を継続している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設長を中心として、前回の自己評価項目を踏まえ職員会議で話し合い、結果を共有して改善への取り組みにつなげている。今後は、ユニット別に作業を促し、サービスの向上へとつなげていく計画をしている。	○	自己評価票を職員に小項目ずつ配布したり、ユニット別に評価を行う計画があるので、そうした作業の中で職員自らの課題発見や新たな気づきにつながる取り組みに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月毎に行い、行政・自治会・老人会・家族などの参加があり、ホームからの経過報告に留まらず、学校との交流などの提案が出たり、積極的な意見交換を行いサービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、2ヶ月に1度のホーム便りを各種の行政窓口へ直接渡しに行くというこまめな行動により、行政とホームの良好な関係が構築されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	前回の改善課題であった「個別便り」は即、ホーム内で話し合いと見直しが行われ、担当者が日々拾い上げた利用者の様子を「個別便り」として毎月家族に渡している。この新たな取り組みにより、家族の安心感を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問機会を利用して、管理者と職員が直接要望を聞くことを心がけている。今後は、家族の声なきつぶやきを拾い上げられるよう、第三者による苦情窓口の拡大を計画している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は少なく、利用者と馴染みの関係ができています。利用者のみならず家族にも職員の顔を覚えてもらい、馴染みの関係ができるよう、職員の紹介方法を検討している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が希望する研修や段階別の研修には職員の調整を行い、必要時には有給扱いとして参加できる配慮をしている。次の職員会議で報告・共有され、ホーム全体の力量の向上を目指した取り組みを行っている。	○	外部研修による力量向上も重要であるが、利用者全体が重度化・要医療になってきていることから、職員が不安に感じることもあると思われる。技術・心理の両面を支える実技と事例を含めたきめ細かな勉強会も実施されたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は市内で行われる同業者との会議に参加し、同業者との情報の共有化を図っている。	○	「外を見る」経験は、職員自身の自己啓発と質の向上に繋がることから、行政にも働きかけ、相互訪問など同業者同士の交流を通じてホームのあり方・問題点等を検討し、互いを切磋琢磨できる場作りに期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者は事前に1週間ほどの体験入居を行い、馴染んだ上でサービスの開始となるよう配慮している。利用者の入居前の暮らしの継続を考慮し、生活歴を把握したうえで適切な支援と対応を配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居前の過去歴や現在の体調などにより、直接手をかけ過ぎない見守りの支援を行っている。加齢や重度化により利用者から教えてもらう場面は減ったが、職員は利用者と一緒に楽しみを分かち合う関係作りに心掛けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や表情からその人の思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な利用者が今後増えることを予想し、行動やその日の様子から源をさぐり、思いに添った支援を継続できるケアに日々取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画については、本人や家族に要望を聞き取り、利用者を主体とした計画となっている。日々の気づきから得た意見を担当者が加え、家族からの評価欄も毎回記入され、本人と家族のニーズを的確に捉えた介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しは3ヶ月毎であるが、利用者の様子と状態に合わせ、柔軟に見直しがされている。また、毎月行う全職員参加の会議には、その人のその時の重点ケアが話し合われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者と家族の要望に積極的に耳を傾け、家族が利用者と一緒に過ごす日々が持てるよう家族の宿泊にも応じている。本人希望の通院は家族が行うが、早期退院の支援や住み慣れた環境での看取りを実現している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体は在宅往診専門医であり、ほとんどの利用者が母体の医師をかかりつけ医としている。医療連携体制により利用者の情報交換を行い、緊急時も考慮し、看護師と職員が対応できるよう情報を把握するよう配慮をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	管理者はケアの延長線上に看取りがあることを認識しており、その命の重さを理解しつつ利用者が慣れ親しんだホーム内で最期を迎えられるよう、入居時に説明を行っている。終末期に関する確認書や看取りに関する指針書なども家族・本人と交わしており、ホームで何人かの看取りを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声をかける時は視線を同じ位置にしたり、排泄にもさりげない誘導で対応し、利用者を常に人生の先輩として敬う支援をしている。また、入浴にも同性介護を実施し、利用者の尊厳を守る配慮をしている。個人情報保護にも配慮し、記録についても注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは決まっているが、利用者のペースや希望を優先した個別性の高いケアができるよう配慮している。就寝時間や食事時間も自由であり、夜中にテレビを見たい人は心ゆくまで堪能し、翌日は午後まで眠るという人にも柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の重度化に伴い、食事の準備ができる人は少なくなったが、テーブル拭きなどは手伝ってもらっている。利用者の身体状況・好みを把握し、残存機能を活かすため、食事時にも職員はできるだけ手を出さず、できない部分だけ介助する見守りを行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	隔日に入浴を行い、利用者の状態によって、大浴槽・特殊機械浴槽・一般家庭浴槽と分けて入浴支援をしている。利用者の体調に細かく配慮し、入浴を無理強いすることもなく、自然に入りたい気持ちになるようさりげなく入浴に誘っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の暮らしの中で、利用者一人ひとりに合った役割や好きなことを見出し、利用者の活力につながるよう支援をしている。本を音読する利用者や、日めくりを毎日めくる役目を行う利用者等、各々が自分の習慣や好きなことを認識して日々の暮らしを続けている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調やその日の天候に合わせ、軽い散歩や庭のベンチでティータイム、初夏は昼食を外で食べるなど外気浴等、四季を感じられるような支援を行っている。今後は、家族の協力を得て、利用者の夢を叶える企画を進行していく予定がある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者と職員は施錠による精神的弊害を認識しており、日中は鍵をかけず自由な暮らしを支援している。出かけようとする利用者には職員がさりげなく声をかけたり、一緒に出かけられる体制を作ることで穏やかさが戻り、落ち着いた様子の利用者が多い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の避難訓練・地域の協力体制の確立・災害時の備蓄品整備・ホーム内の避難経路設定などを行い、消防署との連携による訓練も計画している。	○	災害による被害は、普段の心構えによっても大きな差がでるため、職員の初動体制や意識の改善を図り、ライフライン寸断など様々な場面を想定し、災害時に備えられたい。行政に働きかけ、防災時の避難場所の検討など、行政との協働を期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の持病や体調に配慮し、塩分調整や刻み・超刻み・ペースト食にも対応している。体重が増え過ぎることを考慮して、五穀米や玄米お粥にも対応している。副食の野菜は無農薬野菜を使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビング、居室内には天然木を使用し、木の温もりを大切にしている。天井が高く、解放感あふれた造りとなっており、リビングには畳の和室と、処々にソファやテーブルが置いてあり、利用者は思い思いの場所で、ゆっくりとくつろいでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には床暖房が設備され、柔らかいぬくもりにあふれ、どの居室も使い慣れた家具やタンスが持ち込まれ、おのおの個性ある部屋となっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。